

令和8年度第1回大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事概要

日時：6月26日（金）午後2時～3時15分

場所：大野市図書館 2階 視聴覚室

- ◆出席者 岡崎委員、竹田委員、猪嶋委員、熊川委員、上田委員、川田委員、林委員、櫻川委員、向村委員、石田委員、清水委員、松田委員、伊藤委員、山川委員、前川委員、羽根田委員、齋藤委員、三屋委員、澤田委員
事務局 小林政策推進課長、政策推進課員（廣作、雨山）
小林財政経営課長
- ◆欠席者 保格委員、嶋田委員、藤堂委員、坂本委員
事務局 加藤行政経営部長

◆次 第

1 開会・市長挨拶

公私ともに多忙の中ご出席を賜り誠に感謝申し上げます。併せて、推進会議の委員をご承諾いただいたことに心から御礼申し上げます。

今年度から、この推進会議で取り扱う第六次大野市総合計画後期基本計画がスタートした。計画の策定に当たっては2ヶ年をかけ、市民アンケート調査、各地区での意見交換、皆様の母体から参画いただいた審議会や策定幹事会において、職員と協議を重ね、一つ一つ言葉を選び出し、市民の手づくりで作り上げていただいた。この場を借りて改めて御礼申し上げたい。

皆様の手で作られたこの計画に目標や方向性は定まっている。実現に当たっては、関係者の皆様にお力添えをいただき、自分ごととして取り入れていただき推進していくことが必要である。そのためにも、推進会議を組織し、皆様の力をお借りしたい。

第六次大野市総合計画の計画期間は、前期5年・後期5年の計10年で、2030年までとしている。計画策定の当初から、人口減少社会にあることを前提に着手し、自分ごと化してすべきことに取り組んでいくという考えを取り入れていただいた。このことは、私たちの生活に直結し、未来に向けて今すべきことでもある。また、世界共通の目標であるSDGsをものさしにして、先進的な取り組みにも踏み出していこうと進めてきた。

さらに、後期基本計画では世界の変化を踏まえ新しい考え方を取り入れた。ウェルビーイングの向上、シェアリングエコノミー、ジェンダーギャップの緩和である。こうした新しい視点についてもご検討いただき、これから実施していく段階に入った。

後期基本計画の一つ一つの分野には「ありたい姿」が書かれている。市民で共有しなければ5年後のありたい姿に到達にできない。お願いしたいのは、それぞれの分野で、

この「ありたい姿」を共通の目標として掲げ、自分たちにできることを考えていただきたい。また、「みんなができること」という項目もある。みんなができること、さまざまな主体ができること、行政ができることが合わさって、よりよい大野市となる。そうした視点で後期基本計画をご覧ください、目標に向けて一緒に進んでいただきたい。

今回の推進会議からは、ウェルビーイングの向上という新しい発想にどう取り組んでいくか、という挑戦的な目標もある。限られた時間ではあるが、皆様の知恵をいただき、ともに行動できることを心から期待申し上げる。結びに、お集まりの皆様のますますのご健勝とご活躍、そして何よりも皆様のご多幸・ウェルビーイングを心から祈念し、私からの挨拶とする。

2 会長、副会長の選任

会 長： 放送大学福井学習センター 所長 岡崎 英一

3月まで福井大学に勤め、ご縁がありこの4月から放送大学福井学習センター所長に着任した。本会議の会長として2期目である。福井市民で、この職務を拝命するまではよく存じ上げていなかったが、審議・議論を拝見する中で、多くの市民代表の方々が真摯に討議し、政策をリストアップ・ブラッシュアップし、さまざまな形で提案して施策を立案され、さらには本日お願いする施策への評価をされていることに大変感銘を受けた。私のほうが多くを勉強させていただいた2年間であった。今回も続けてとのお話をいただき、是非にとお引き受けした。今回も皆様と議論を重ね、よりよい施策や評価検証につなげていきたい。限られた時間の中で、議事進行へのご協力をお願いする。

副会長： 福井工業大学 教授 竹田 周平

昨年度から引き続きよろしく願いする。ご支援いただきながら、円滑な議事進行に努めたい。

3 議事

(1) 推進会議の趣旨及びスケジュールについて

概 要： 参考資料に基づき事務局説明

初めて委員になられた方もいらっしゃるので、要綱から推進会議の役割を簡単に説明する。第2条「所掌事務」の1点目は、総合計画及び総合戦略に基づく施策の実施状況及び効果の検証に関する事。今回の外部評価がこれに当たる。3点目は、総合戦略の策定及び改定に関する事。総合戦略とは、総合計画に掲げる施策のうち、地方創生や人口減少対策に特化した施策を取りまとめた計画である。期間は5年間で、後期基本計画と同じである。本年3月に策定したばかりであるため当面の改定は考えていないが、改定の必要が生じた際には皆様にお諮りする。3点目は、総合計画及び総合戦略の推進並びに行政改革に係る諸課題について必要な意見、提言を行うこと。今回の要綱改正で「行政改革に係る諸課題に関する事」を

追加した。本日追加した資料 6 が、これに当たる。

今年度のスケジュールは、推進会議と専門部会に分けて記載している。本日が第 1 回推進会議。今後の予定として、8 月 6 日（木）午前 9 時から第 2 回推進会議を開催し、同日、終了後に引き続き第 1 回専門部会を開催したい。場所は市役所大会議室の予定。その後、専門部会では市民アンケート（市民意識調査）を行い、10 月に第 2 回専門部会、11 月（未定）に第 3 回推進会議を予定している。

質 疑： 意見なし

（２）令和 7 年度施策の外部評価の方法について

概 要： 資料 1 に基づき事務局説明

施策評価の大きな流れは、昨年度に経験された方はほぼ同じとお考えいただきたい。評価の目的は、施策の実施状況や効果の検証を行い、総合計画の着実な推進を図ること。検証結果に応じて手法を見直すなど、効率的・効果的な行財政運営を図ること、市民ニーズに合った施策の展開につなげる目的がある。なお令和 7 年度の施策は、前期基本計画の最終年度に当たる。そのため今回の施策外部評価は、前期基本計画の評価の総括を兼ねる意味合いがあり、ここが昨年度と異なる。

評価の流れについて、(1) 内部評価は市が事前に行ったもの（資料 2 冊子）。

(2) 外部評価は、推進会議の委員の皆様により A～D の 4 段階で評価いただくもの、最後に (3) 市による総合評価を行う。日程は、外部評価作業を本日から 7 月 10 日（金）までにお願ひし、第 2 回会議で総合評価を報告する。

資料 1-2「外部評価作業要領」。区分はこれまでと同じであり、委員ごとに担当いただく施策評価シートを割り振っている。右側に「1 子育て」、「2 学び」から「24 行財政」までである。この割り振りで、各項目シートに A～D の評価付けと、意見・コメントをお願いしたい。

裏面の (1) 評価について、評価基準は、昨年度までは「目標を達成する見通しである」といった含みのある表現があったが、今回は最終年度のため「達成したか／否か」へ基準が変わっている。(2) 意見については、各分野の担当シートに対し一つ以上、意見をいただきたい。いただいた意見について、事務局からその趣旨を確認させていただく場合もあるのでご了承願う。

別紙「施策評価シート（記入例）」は、実際の項目 20「移住定住」のシートである。表側は「①施策の取り組み状況及び成果」として令和 7 年度の取り組みと成果を記載。裏面の「②成果指標」は、指標名、令和 7 年度実績値と目標値を記載、達成度を確認できる。その下の「成果指標の検証」には達成状況に関する検証・要因、内部評価欄は結果を記載。

今回新たに「③前期基本計画における主な取り組みと実績」を追加した。

最終年度の評価となるため、5年間の総括として主な取り組みと実績を3点ほど記載し、評価の参考情報とした。

実際に評価いただく施策評価シートは資料2。事前に配布した外部評価シートの提出方法は、郵送・持参・メール・WEBフォームにより可能であり、7月10日（金）までにお願ひする。郵送を希望される方は返信用封筒と切手を用意しているので、事務局へ申し出ていただきたい。

岡崎会長 昨年も委員を務められた方は昨年と同じ形での評価となる。新しい方で、何をするかまだ納得しきれない場合は、後ほど事務局に確認いただく、あるいはこの場で質問いただきたい。今回は最終年度のため、これまでは「ここまでやってきて、今後こうなるからこうだ」という見通しの評価であったが、今回は終わったことについて「ちゃんとできていたか／まあまあできていたか／駄目だったか」を評価する点が昨年と異なる。その点を含みおきの上、7月10日までに評価し、市へ返送いただきたい。

質 疑： 意見なし

岡崎会長 事務局案の評価方法で進めることについて承認いただけるか。

結 果： 承認（挙手多数）

（3）令和7年度施策の内部評価結果の報告について

概 要： 資料2，3に基づき事務局説明

資料3は内部評価結果と成果指標の達成状況の一覧である。左側の黄色で網掛けしたAやBなどが内部評価の結果。右側の黄色で網掛けした数字が令和7年度の実績値で、オレンジ色の網掛けは目標値を既に達成したものである。57指標のうち20指標で目標を達成している。

内部評価の評価基準は外部評価と同じである。各部署で自己評価を行い、事務局で全体を見渡して評価に揺れがないか確認し、再度各部署に確認を依頼した。

全体を見渡す際には2点重視した。1点目は、成果指標が目標を達成しているか、概ね達成といえるか、未達や悪化ではないかを横並びで確認した。

2点目は、C評価にある「取り組みの改善余地があるか」について確認した。これは、指標の結果が取り組みの改善で変わり得るものか、それともコントロールできない外部要因が主因かを検討した。具体的な要因としては、コロナ禍の影響、中部縦貫自動車道の開通時期の延長、国道158号の長期間の通行止め、運転手不足など人材不足に伴う影響などである。よって、指標の実績値だけを見るとCが適当と思われるものでも、外部要因が主因であり施策による改善の余地が乏しいと考えるものはBとした。

これら要因は、成果指標の検証欄に記載している。このように確認を重ねたものの、内部評価が甘い、あるいは厳し過ぎるといった考えもあるように思う。委員の皆様には率直に評価をいただきたい。

なお昨年度までは、各分野のグループに分かれ、資料2に基づき施策評価

シートの概略の説明と質疑を行っていた。しかし本日は会場の都合上グループ分けが難しく、全項目の説明には相当の時間を要するため、資料2による各項目の説明は省略させていただきたい。なお、資料2は事前に配付済みであり、確認したい点や質問があればこの後お受けしたい。

最後に資料6について。公共施設再編の進捗状況に関するもので、評価報告書では「24 行財政」に係り、行政改革に関する取り組みとして報告する。公共施設再編計画編は、前は令和4年3月に改定し、令和8年3月までの各年度の主な取り組み内容と施設の増減を整理したものがこの資料である。なお、各施設の建物の状況・利用状況・維持管理コスト等を再評価した上で、業務遂行上や政策的観点から必要性を検討し、各施設の方向性を決定して本年2月に改定している。

資料6の延床面積は、令和4年3月時点と令和8年3月時点の合計を比較している。施設数は、計画改定に伴う区分変更等の調整も含み、令和4年3月と比較して14施設の減少。延床面積は約2万9000平方メートルの減少である。

質 疑：

委員 一覧に施設数は入っているが、こうした一覧はこれまで資料として出ているのか。私は初めてなので分からない。

事務局 こうした資料は初めて。今回から、行政改革に関する取り組みがこの推進会議の事務に加わったため、公共施設再編の進捗状況について報告したものである。

委員 施設が15から13に減ったということだが、実際にどの施設なのかが分からない。

事務局(財) 例えばスポーツ施設にどのようなものがあるか、というお尋ねかと思う。15施設がどこかは資料に示していないが、減ったところ・増えたところは年度ごとに具体的な施設名を記載している。例えば令和4年度は、スポーツ施設で真名川憩いの島上流のトイレが増えたことを記している。

委員 全体として、他の15施設がどこにあるのかは示されていない。

事務局(財) 今回改定した施設の一覧は、ホームページで公開している。委員の皆様には、この計画を後日送付させていただきたい。

岡崎会長 後日、各委員に配付するということでしょうか。事務局は手配をお願いします。

委員 資料6の見方について。令和7年度に計画改定があり、それにより区分変更がされ、各区分から下段の『普通財産』へ動いたように見える。この区分変更とは、実際にはどのようなことをしているのか。

事務局(財) おっしゃる通り、普通財産へ動いたものがある。例えば幼稚園や学校が廃止になった場合、改定によって条例がなくなるため、文教施設から普通財産へ移している。また計画の中で、例えば富田幼稚園だったところに荒島保育園が入り、2つの施設が1つになり1つ減らすなどの調整をしている。

用途や条例等の廃止により減らしたのが最も大きいところで、普通財産へ22施設移っているのが最大の要因である。

岡崎会長 前回同様、この内部評価はあくまで内部の方々の評価であり、我々はそれとは別の観点から外部評価を行ってよい。

すなわち「この論点から見ればもう少し頑張れたのでは」「数値的にはともかく」といった観点で、現場やいろいろな場を見ている各委員が、より低い評価を付けることも当然あり得ると理解しているが、それでよいか。

事務局 然り。各委員が感じ取ったものをそのまま付けていただきたい。市はどうしても指標・実績値の数字をまず重視しがちであるが、委員の皆様は実際に多くを肌で感じ、意見を持っておられると思うので、これに沿って評価を付けていただきたい。

委員 資料3の「通いの場」の設置数について、令和7年度実績で83、目標は90。83とは何を指しているのかが漫然としている。内訳がほしい。

事務局 成果指標の内容を読み上げる形になるが、65歳以上の高齢者が月1回以上活動している実績のある「通いの場」の設置数である。サロンを自主的に運営するものなどが該当する。

【会議後補足】

「通いの場」は、介護予防に効果があると言われている取り組みで、地域の身近なところで概ね65歳以上を対象に月1回以上活動しているものをカウント。内訳は、行政区ごとに自主的に実施している高齢者サロンや公民館でのクラブ活動、第2層協議体で居場所づくりとして立ち上がったサロン、保健センターで実施している「健康プラスデー」、市が把握する民間事業所の取り組みなど。

委員 念のため確認したい。評価シートの提出分野について。例えば、私はスポーツ協会のため健康福祉のスポーツが担当だが、スポーツの評価シートだけ提出すればよいか。担当は健康福祉分野に属している。

事務局 健康福祉分野のため「3健康・医療」「4地域福祉」「5スポーツ」の3項目について評価をお願いしたい。

委員 項目3、4はよくわからない。評価報告書を見ながら評価する分にはよいが、あまり参考にならないように思う、それでよいか。

事務局 分野全てについてお願いしたい。なお、今いただいた意見に関係するが、現在の評価方法は、前期基本計画における方法・様式である。来年度も何らかの評価は必要と考えるが、後期基本計画となり、これまでの方法・様式は続かないと考えている。第3回の推進会議で、来年度の評価の取り組み方をお伝えし、ご議論いただく見込みである。現方法は、今回が最後の可能性が高いことを、お伝えする。

岡崎会長 各委員の担当が決まっているので、それぞれ評価を進めていただきたい。7月10日までに、市への提出をお願いする。

なお、不明な点があれば、事務局に説明させればよい。私も全項目を担当しており、事務局に対し、「これはどういうことか、この数字はどういう意

味か」と聞いている。私は大野市民ではなく福井市民なので、大野市を外から見る観点で、福井市と並べて比較したりしている。各委員の皆様も立場があり難しい点はよく分かるが、できるだけ市民の目・専門家の目に即して評価いただくことで、公平で適切な、全体的な評価ができるというのが私の考えである。分からないことは事務局を使い倒して結構なので、ぜひ質問いただきたい。そのために事務局があるのであり、事務局が各部署へ電話で情報を集めて連絡するスタイルと理解している。

(4) 専門部会（ウェルビーイング部会）の設置について

概 要： 資料4，5に基づき事務局説明

資料4について、専門部会は、設置要綱第7条で、推進会議に必要に応じて置くことができると規定されている。昨年度の第4回会議で、ウェルビーイング部会を設ける予定であると頭出しした。本日は、今年度取り組む部会の概要、委員の構成、そしてイメージとして部会の成果物について資料5で説明する。

概要として、後期基本計画の5年間はウェルビーイング部会を常設したい。ウェルビーイングをまちづくりのものさしとして組み入れ、市民の幸福度や暮らしの満足度を把握し、施策の方向性を検討したい。また、毎年テーマを設けて踏み込んだ検討も行いたく、今年度は「地域づくり」をテーマとする。

地域づくりの背景と目的として、ウェルビーイング指標を用いた市民アンケートでは、大野市は「町内への愛着」や「町内の信頼関係」といった項目が、福井県全体に比べて高い結果が出ている。この良い面を維持していくために、どのような視点を大切にして地域づくりを進めるとよいかなど、調査・分析したい。

検討内容と開催回数は、1回目の部会で、市民アンケートにおける独自の設問を検討したい。国が示すウェルビーイング指標は50問を超えて非常に多いため、独自設問は2～3問になる見込みである。

その後、9月に市民アンケートを1ヶ月間実施し、10月に予定する第2回専門部会で結果を報告・分析し、施策等の方向性を検討したい。

部会委員は、◎印を付けた皆様をお願いしたい。なおアドバイザーとして、福井県立大学の高野准教授、福井県庁でウェルビーイングの推進に取り組む未来戦略課課長補佐の飛田様の2名に入っていただく。

資料5について、これは部会の成果物のイメージ、調査結果を分析したレポートのイメージである。内容の詳細を詰め切れておらず未定稿版であり、部会で行うことのイメージとして捉えていただきたい。

タイトルは「町内の寄合やイベントと幸福度・生活満足度の関係」。

「このレポートでわかること」には次のように記している。昨年9月、国が示すウェルビーイング指標を用いた幸福度・生活満足度のアンケートを行い、市民314名から回答を得た。市の独自設問として、(1) 町内の寄合

(各世帯の人たちが町内で集まる機会)の頻度、(2)町内でのイベント(祭り・バーベキュー・防災訓練など)の有無、の2問を設けてみた。

結果として、寄合の頻度やイベントの有無と、市民の幸福度・生活満足度との直接の関係は見られなかった。一方で、幸福度・生活満足度は、国の指標に元から入っている「同じ町内の人を信頼している」「相談できる人が身近にいる」「町内に愛着がある」といった項目と強く結びついていることが分かった。そして寄合の頻度は、この住民同士の信頼や町内への愛着と関係し、ひいては幸福度・生活満足度につながる、という構図が見えてきた。

詳細は9ページとなる。寄合の頻度と地域のつながり感の関係についてで、グラフは左から「同じ町内の人を信頼」、中央が「コミュニティ活動が盛んかどうか」、右が「町内に対して愛着があるか」。縦軸は5点が最も高く(あるという状態)、1に近いほど低い。

帯の色は、濃い色が毎月寄合をしているグループ、隣の薄い色が2～3ヶ月に1回のグループ、その隣が年1回の総会のみといったグループ、最後が町内の集まりが全くないグループに分かれる。

ご覧の通り、寄合の頻度が多いほど各スコアが高い。表4は各スコアである。一番下に相関係数やP値といった見慣れない用語があるが、こうした内容も調べている。相関関係は弱いものの、頻度によって明確な違いがあることは言える。

11ページのまとめでは、3つの関係をつなぐと、「寄合の頻度が町内の人への信頼や愛着を育み、それが結果として幸福度・生活満足度につながっている」という構造が見て取れるとしている。寄合には「集まる機会」としての価値があるのではないか、というのが今回見えてきたところである。市内では、地区によっては寄合をやっているところもあれば、まちなかなどでは全くないところもあると思われる。こうした市民意識調査の結果を受け、専門部会の皆さんと意見を交わしながら、これからのまちづくりや施策へのヒントが得られるとよいと考える。

実験的な取り組みであり、アンケートを取れば必ず良い成果や示唆が得られるとは限らないと思っているが、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

質 疑：

岡崎会長
事務局

スケジュールについて、専門部会ではいつ頃を目途に結論を出す予定か。冒頭の参考資料で示した通り、10月に第2回専門部会を行い、そこでいただいた意見を第3回推進会議で報告できるようにしたい。

岡崎会長

推進会議の委員も興味があると思う。まとめ次第、あるいはある程度方向が固まった段階で、事前に情報共有していただきたい。

言い換えれば、こちらからも専門部会に「これはどういうことか」と提案・質問できれば、より実り多くなる。もちろん専門部会で進めていただいて結構であるが、情報共有をできるだけしていただいた方が実り多くなると、

スケジュールを見て思った次第である。他に委員の皆様から意見はあるか。昨年は「ウェルビーイングとは何か」といった議論もあった。部会を作ることとは前回会議で了解いただいた上で事務局が進めているものだが、改めてその意義でも、部会の進め方への感想・意見・提案でも、何でも結構である。

委員 私は山間部寄り上庄地区に住んでおり、地区の寄合は月 1 回あるのが当たり前と思っていたため、そうではない地区もあるのかと、逆に驚いたほどある。集落の世帯数は 18 世帯ほどの規模で、信頼関係もあり、どこの誰が何をしているか大体みんなが把握しているような、つながりが強い。資料に出てくるが、寄合の頻度を増やすと信頼関係がより深くなるというわけではない（相関関係の値がそこまで高くないため）ものの、何かしら関連はあるという意味合いと理解した。当然ながら、住んでいる地域の環境、特に山間部では、協力し合わないとも減り、どうしようもなくなってしまふ。また、まちなかであれば、別の要因も絡んでいそうな気がする。顔を合わせる頻度が多くなると信頼関係に何となく関連はありそうだが、そこにウェルビーイングがつながるという点は、もう少し根拠がほしいと感じた。感想のようになってしまい恐縮である。

岡崎会長 大変重要なお提案なので、この辺りも部会で十分検討いただきたい。私も含め多くの市民がウェルビーイングに関して腹落ちできていない面もある。「これはどういうデータなのか」といったところ。最後のページの関係性も含め、今回ご専門の方が 2 名アドバイザーで加わるので、専門部会の委員の方々も、できれば腹落ちした形で報告していただけるとよい。その点、事務局で配慮を願う。

委員 専門部会が 2 回になったので確認したい（3 年前は 3 回実施）。資料の「町内の寄合やイベントと幸福度・生活満足度の関係」は単なる例示なのか、全く別のテーマの話になってもよいのか。仮に別テーマとした場合、9 月にアンケート調査があるので、8 月の 1 回目で方向性まで出し、質問できる体制に持っていかなければならない。10 月には回答を見て総括するスケジュールになると思うが、そうすると、8 月 6 日に『さあテーマを』では間に合わない気がする。決め打ちでやらないと難しい、どう考えているか。

事務局 資料 5 は例示である。おっしゃる通りで、9 月にアンケートを取ることを考えると時間的な余裕はない。8 月の 1 回目の会議では独自設問を検討いただくことになるが、事務局と担当課で話し、設問案を複数持ち寄り、それをもとに議論いただきたいと考えている。実際のアンケートはインターネットを通じて回収するため、郵送の手間や時間はかからず、スピーディーにできる。10 月の 2 回目の会議までに、よりよい形で調査結果をとりまとめられるか、という点の方が時間的に心配であるが、整えたい。

岡崎会長 事務局案での専門部会の設置について承認いただけるか。

結 果： 承認（全員挙手）

その他

事務局 2点報告する。1点目、返信用封筒と切手を用意しているので、必要な方は申し出ていただきたい。2点目、謝礼の振込先と、マイナンバーカードの写しを本日お持ちの方は、お帰りの際に事務局へ提出をお願いする。

閉会（竹田副会長）

ようやく梅雨らしくなり、雨の日が増えてきた。季節を感じられるのは日本の良いところだと思う。最近、時間のある時に大野のまちなかや郊外を見ることが増え、改めて良いところがたくさんあると感じる。こうした情報もうまく発信していきたい。

今回の評価でも本当に多くの項目があり、見ると我々も学ぶことが多い。皆様も、自分の専門外のところもあるかもしれないが、ぜひ目を通した上で少し考えていただき、新しい視点でこの推進会議に忌憚のない意見を、これからも賜りたい。引き続きよろしく願います。

◆会議資料

次第

大野市総合計画・総合戦略推進会議委員名簿

資料1：大野市総合計画に基づく施策の評価について

資料2：第六次大野市総合計画評価報告書（令和7年度施策） ※6月12日時点版

資料3：内部評価結果及び成果指標の一覧（令和7年度施策）

資料4：専門部会「ウェルビーイング部会」・部会員名簿

資料5：町内の寄合やイベントと幸福度・生活満足度の関係（未定稿）

資料6：大野市公共施設等総合管理計画（公共施設再編計画編）の進捗状況

参考資料：推進会議の趣旨とスケジュール